

# 市民と議員 懇談会レポート

## 市民

私のテーマは「男女共同参画社会」に向けた取組みである。身近な例として各自治会の会合には通常世帯主（男）が出席し、女性の参加がほとんど見られない。区長、農会長、町役員のほぼすべてが男性で占められている。議員の場合は立候補する必要があるが、そういった区長等の役員は女性をもっと登用しやすいはず。

当市内にあってはまだまだ自宅における葬儀が主流であり、それはそれで大切なのだが、近年では近所付き合いも希薄の傾向にあり、さらに一人暮らしの家庭も増える中で、自宅での葬儀が困難な状況も出てきている。当市の斎場の利用状況を調査したところ、平成12年度の死亡届は本籍・非本籍等含めて、合計446件で、そのうち当市の斎場を利用したのは433件であり、13件は他の斎場等を利用している。一方、平成13年度は564件の死亡届で当市の斎場の利用が406件。すなわち158件が当市外の斎場等を利用したことになる。この原因は宗教や地理的な問題からくるものだと思うが、これほどまでに当市の斎場の利用が減った要因は何なのか、疑問に感じるところ。

下水道の使用料について上水道との使用料と大きな格差がある場合の料金設定基準はどうなっているのか。農集排・コミプラの処理場ではどの程度まで処理できているのか。河川に放流するまで浄化されているのか。また水質検査はどうなっているのか。



加西市がISO14001認証取得することについて、市民にはそれがどういう意義、効果があるのか、非常にわかりにくい。多くの市民が理解できていないのではないだろうか。私も書籍等で研究したがなかなか複雑で理解しにくい。



成人式で成人あげてクリーンキャンペーンに取り組もうという提案をできないものか。

現在、高校生1年生を頭に保育園児まで4人子供の子供を抱えながら民間企業の事務員として働いている。私が望みたいのは学校放課後の子供たちを預かる学童保育の充実である。いまの現状では女性が働きながら子育てをするというのは非常に困難な面があるのではないだろうか。保育所に預けるにしてもその送迎をどうするかという問題がある。そういった事情から働きたくてもパート等にとどまっている女性も多いのではないだろうか。

## 議員

懇談会では、市民9名と正副議長、議会運営委員長、各常任・特別委員長が出席し、様々なことが話されました。その一部をかいつまんで紹介します。



議会という立場上、執行者の答弁のように具体的な施策の展開をここで述べることはできないことについてはご理解願いたい。いまの発言については全く同感であり、これからのまちづくりにおいて十分に取り組んでいかなければならない課題である。ただ行政として自治会の役員構成まで立ち入って女性を登用するように要請をしていくことは困難な面があるのではないだろうか。いずれにしても男女共同参画社会実現に向けた取組みとして議会・行政とも考えていかなければならない。

市営の葬儀会館については本会議の一般質問でも取り上げられた問題である。私もとくに北条町等の市街地では家が手狭であるとか環境等の問題から自宅での葬儀が困難であるとのケースも出ているようだ。執行者からは葬儀についてはやはり旧来からの近所の協力によるやり方を肯定しつつ、財源不足から市葬儀会館の設置は難しいとの答弁であった。これとは別にJAの合併によりJAによる葬儀会館の建設ということも聞かれるが、現時点では市としてはJAの動きを待つといった段階にとどまっている。

加西市の上水の使用料については県下でも非常に高い状況にあるということは既にご承知のとおり。さらに下水道の使用料も改正され、従来よりもアップとなった。市も応分の負担ということで国庫の補助も受けて、経営努力してきたが、料金の値上げもやむなしという状況に陥った。指摘の下水集合処理施設の浄化レベルは、最近完成した処理施設にあっては国の排水基準を全てクリアしているが、古い施設については、旧来の基準に合致しておればよいという緩和措置がある。特にチッソ、リン系については規制が強化されており、その措置については特に注意を払っている。従って排水基準に合致しないような状態での放流は考えられない。

ISOの認証取得については既に民間企業でも取得しているところが増えてきた。そういった意味で当市役所においてもISO14001を認証取得することによって職員の意識向上と市民への啓発につなげていくのが大きなねらいだ。電気、燃料、紙、水の浪費防止、夏季の冷房28度設定等、市役所を対象に環境負荷の低減、さらに公共事業においても再生部材の使用に努めている。今後、学校、病院等、順次外部の施設にもISOの認証取得を目指すべきではないだろうか。加西市の後世を担う子供たちの意識向上にもつながり、10年、20年先にはきっと効果が出てくるのではないかと。

趣旨については異論のないところ。当市の成人式のあり方も徐々に変わってきており、これまで行政が全てお膳立てしていたものを新成人の実行委員会方式により計画をしている。成人としての自覚を植え付けるものとして提案のあったクリーンキャンペーンというのは素晴らしいアイデアであり、成人の自発的な取組みが待たれるところだ。

学童保育については、既に一部で実施している箇所もあるが、幼稚園の預かり保育の充実をはじめ大きな課題である。いずれも市民からの強い要望があることを執行者側に働きかけていく必要があり、徐々にではあるが、その整備に向けた取組みがなされているのも事実。私もこれまで九会幼稚園前で預かり保育について保護者の聞き取り調査を実施、預かり保育設置に向けた要望活動を行ってきた結果、本年度から幼稚園で導入できた経緯がある。

学童保育は議会でも何度となく取り上げており、とりわけ小学校低学年の児童をもつ家庭においては心配なことであり、整備の充実が望まれる。もちろん発言のあった要望事項については市長に要望していく。